

発達特性等による困難のある 大学生の就職支援と啓発活動 2025年度事業報告書

2026年3月

N P O法人札幌チャレンジド

目的

<中長期>

本事業の効果により、札幌圏の半数以上の大学において発達障害特性等によって就職できない学生への取組みが進む状態となる。大学において札幌チャレンジドと繋がることの有用性が認識される。

<最終目的>

発達障害特性等によって就職に大きな不安を抱えた大学生・若者が安心して相談、研修を受けることでそれぞれの能力を社会で発揮できる地域となる。

目標と結果

【数値目標と結果】

No	内容	目標	結果
1	連携する6大学での説明会開催数	30回	31回
2	学生・保護者向けセミナーの開催数	2回	2回
3	研修・相談参加学生数	40名	55名
4	研修・相談のべ参加学生数	のべ300名	486名
5	就職決定学生数	6名	12名

【定性目標】

本事業の中長期目標の達成に向けて、各大学の認識が変化し、取組みにつながる。

【結果】

各項目の考察に記載。

事業内容と結果考察

【1. 学生向け説明会および学生・保護者向けセミナー開催】

- ▶ 大学と連携した説明会：31回、参加者53人
- ▶ 上記参加学生の学年（質問に答えた学生の数）
 - ▶ 1年生6人、2年生8人、3年生19人、4年生5人、院1年生1人、院2年生2人、不明12人
- ▶ 目標値としては設定していなかったが、説明会への参加者数が減少（2024年度78人）した。ただし、アンケート結果等からは、潜在的なニーズは変わらないと思われる。

（注）連携大学：北海道大学、札幌学院大学、北星学園大学、北海道科学大学、星槎道都大学、藤女子大学

事業内容と結果考察

【1. 学生向け説明会および学生・保護者向けセミナー開催】

- ▶ 保護者向けセミナー第1回目は、9月13日にNoMaps と連携して開催した。参加者21人。テレビ取材（uhb）が入り地域のニュースとして報道された。

<https://www.uhb.jp/news/single.html?id=53734>

※NoMapsは、北海道を舞台に、新しい価値を生み出す大きな枠組み。クリエイティブな発想や技術によって、次の社会・未来を創ろうとする人たちのための交流の場（コンベンション）です。

- ▶ 第2回目は、対象を企業向けに変更し、2月26日に北海道経済団体連合会の役員懇談会で事業内容を説明した。参加者20人。とても関心が高く次年度の協力の了解を得た。



特別セミナー

超福祉から考える
コミュニケーションが苦手な
学生・若者の就職支援セミナー

2025年9月13日(土)13時30分~15時

会場：株式会社TMJ札幌D-LIFEPPLACEセンター 会議室
札幌市中央区北三条西4-1-4 D-LIFEPPLACE札幌4F
定員：50名(申込先着順) 参加費：無料

講演 北海道大学 学生相談総合センター長 安達 浩
コミュニケーションが苦手な学生が
就職し働き続けるために必要な社会視点

ディスカ
ッション 北海道大学 学生相談総合センター長 安達 浩
NPO法人札幌チャレンジド 理事長 加納 尚樹
NPO法人札幌チャレンジド 理事 大山 珠美

コミュニケーションが苦手な学生、就職の難しさを苦に悩んでいる、就職活動の進め方、就職活動の準備、就職活動のサポートなど、多岐にわたる社会に必要事項についてお話しします。

お申込み先 主催・お問い合わせ
NPO法人札幌チャレンジド キャリアデザイン札幌チーム
電話：011-769-0906 (キャリアデザイン札幌チーム直線)
発行期間：月曜日~金曜日 9:30~17:30



事業内容と結果考察

【2.対面・LINE相談窓口の運営、各種研修、就職活動支援】

- ▶ 研修会および個別相談への参加者数は、年々、順調に増えている。学生への認知度や満足度が向上している結果と考える。
 - 2023年度：28人、のべ119人
 - 2024年度：42人、のべ407人
 - 2025年度：55人、のべ486人
- ▶ LINE登録者も2023年度末62人、2024年度末130人、2025年度末175人と着実に登録者が増えている。
- ▶ 研修に参加したことにより自信を身に付け、就職活動へ前向きな気持ちで取り組む学生が増えており12名の学生の就職が決まった。

事業内容と結果考察

【就職が決まった学生12人の概要】

＜業種＞ IT：2人 医療・福祉：2人 公務員：3人 製造小売：1人
教育：1人 派遣：1人 コンサル：1人

＜職種＞ エンジニア：2人 一般職：4人 専門職：3人 看護：1人
管理栄養士：1人

＜学科＞ 教育学院、人文科学科、法学部、医学部保健学科、情報工学科、健康栄養学科、
経済学科、デザイン学科、文学院、文化総合学科、法律学科
(院卒2人 学部卒9人)

＜性別＞ 男性：4人 女性：8人

＜備考＞ 9人は利用期間1年以上、12人全員障がい者手帳無く、一般就労。
障害者手帳保持者の5名が、就労移行支援事業所4人、就労継続支援事業所1人の
進路も決まった。

事業内容と結果考察

【3.協力企業ネットワーク創りおよび企業向けセミナー】

企業向けセミナーを2回開催し、計8社が参加した。

セミナーの内容としては、事業内容の説明と「お仕事体験」への協力の依頼を行った。

セミナー参加企業を中心にお仕事体験への協力登録企業は、9社となった。

登録企業の中から2社が実際に3名の学生にお仕事体験を実施した。

登録企業への個別訪問を行い、相互理解を深めて次年度以降も引き続き、協力していただけることとなった。

2025年11月17日（月）の毎日新聞で紹介された。

新たな人材確保視点セミナー
発達特性学生の能力値

参加無料

講師
NPO法人札幌チャレンジ
理事長 加納 尚明
理事 大山 珠美

参加申込はこちらから
QRコード

働く能力があるのに就職が決まらない
発達特性のある学生について話します。
人材採用の一助に！

11月11日
採用に苦労している
採用担当者必見！

お問い合わせ・お申込み
NPO法人札幌チャレンジ
キャリアデザイン札幌チーム
電話 011-769-0986
メール iko@s-challenged.net

主催：NPO法人札幌チャレンジ 協力：札幌商工会議所



インターンシップ
受け入れ企業
募集説明会

一歩踏み出す若者に、
社会とのつながりを。

株式会社すみか、NPO法人札幌チャレンジの協賛に協力し、
コミュニケーション能力を伸ばし、社会貢献の「ほぐし隊」を育成し
ていきます。興味のある方は、お気軽にご参加ください。詳細の
募集枠や条件については、お問い合わせください。興味のある方は、
ぜひお申し込みください。応募資格は、
①高校卒業後、1年以上の社会経験があること
②就業先は、札幌市または札幌近郊の企業であること
③応募資格は、
・専攻の専攻と学生の特性に
・インターンシップ受け入れの環境
・就業先は、札幌市または札幌近郊の企業であること
・就業先は、専攻分野
④応募資格は、
右記のフォームURLから
お申し込みください。

日時 2025年11月21日(金) 10:00~11:30
会場 sumika Learning Studio
札幌市中央区南一条西1丁目1-101号
対象 企業経営者・人事担当者
内容
① 事業の概要と学生の特性紹介
② インターンシップ受け入れの環境
③ 就業先は、札幌市または札幌近郊の企業であること
④ 就業先は、専攻分野
⑤ 応募資格は、
右記のフォームURLから
お申し込みください。

主催 NPO法人札幌チャレンジ 協賛 株式会社すみか
会場 札幌市 株式会社すみか



事業内容と結果考察

【4.地域連携プラットフォームの学生支援プロジェクトの運営】

札幌圏の大学による「地域連携プラットフォーム」は、大学間の調整に時間を要しており、最終調整中である。正式名称は、「地域連携プラットフォームさっぽろ」。11大学が参加予定。

なお、「地域連携プラットフォームさっぽろ」の構築事業は、札幌市の補助対象となっている。

札幌チャレンジドが実施している大学生支援については十分に理解していただいております、正式に活動が始まってから具体的な取り組み内容を協議する。

事業内容と結果考察

【5.事業啓発動画制作と公開】

5本の動画を制作し、学生支援のホームページに公開した。

1. 就職支援事業について
2. 就活サポートプログラム
3. 就活悩みあるある
4. 失敗しないための仕事選び
5. 自己分析,就活スキルプログラム

少しずつであるが着実に再生回数が増えている。

<https://careerdesign-sapporo.com/>

2025年11月14日（金）の北海道新聞で紹介された。

@札幌チャレキャリアデザイン札幌チーム



就職支援事業について

「コミュニケーションが苦手な学生・若者への就職支援事業」について、札幌チャレンジの代表加納より、支援事業を始めた経緯やその事業への思いを説明しています。



就活サポートプログラム

コミュニケーションが苦手な学生・若者への就職サポートプログラムのご紹介です。就活がうまく進まない、就活の一手が踏み出せない、就活で悩んでいるあなたに、「就活をうまくスタートする」方法をお教えます！



就活悩みあるある

「就活生の悩みあるある！」をテーマにお送りします。普段、学生さんの皆さんと関わっている私たちが感じた学生さんのお悩みや、そのお悩みについてのお答えをご紹介します。



失敗しないための仕事選び

「自分が何に向いているかわからない」という学生さんの悩みを解消するための職業探しの「自己理解」として、「自分の興味傾向」や「職業適性」を調べる検査と、検査を受けた学生さんの声などのご紹介です。



自己分析,就活スキルプログラム

エントリーシートに何を書いたら良いのが、エントリーシートに書く題材がない！履歴書の細かな書き方を教えて！面接が不安！そもそも自己分析は必要なの？という学生さんの悩みについて、その悩みの要因と対応について解説いたします。

3年間の活動考察

- ▶ 2023年から3年間、日本財団の助成によって本事業を実施することができた。3年間継続したことで年々、支援を希望する学生が増えたこと。就職を実現した学生が増えたことなど成果は、とても大きい。特に、大学との連携関係を構築できたことが学生への周知や当該学生の紹介などに繋がっている。
- ▶ 本事業での取り組み内容は、今まで表立っていなかった大きな社会課題であり、その解決に向けての日本で最初の本格的な取り組みになった。この社会課題は、当事者や家族の福祉的側面での課題、大学の就職支援の課題、企業の人手不足の課題（経済面での課題）といった多面的・複合的な課題であり、だからこそ、個々の側面の課題として捉えるのではなく、「地域の課題」として捉えることが重要となる。
- ▶ そして「地域の課題」との認識を行政が共有したことも大きな成果である。行政が具体的な政策として取り組むことまでは実現していないが、3年間の事業期間中、常に行政とコミュニケーションし、側面的な協力を得ることができた。

3年間の活動考察

- ▶ 事業を3年間実施したことで2点の大きな課題も明確になった。
- ▶ 1点目は、札幌チャレンジドが対応しているのは潜在的なニーズの一部であり、学生や大学への周知が進むほど、札幌チャレンジドが対応できる人数が限界点に達した。2026年3月末で助成金での財源確保が終了することもあり、運営体制の見直しが必要となっている。4月以降、当面、新規の学生の受入れを停止し、既存の学生への対応に専念することとした。既存学生が一定程度、就職した後は、新規受け入れを再開する予定である。また、引き続き、行政への働きかけを行い、安定して継続できる体制作りに取り組んでいく。
- ▶ 2点目は、当該学生を採用する企業を増やすこと。発達特性のある学生への理解を促進し、企業の採用への考え方を変革していくことが必要となる。多くの企業は、発達特性への理解が乏しく、従来の採用基準のままとなっている。この点については、2026年度の日本財団助成への提案が採択され「ニューロダイバーシティ推進のための地域就労推進」事業によって取り組みを進めていく。